

令和 8 年用食用ぎく病害虫防除基準

※農薬散布にあたっては同一成分の連用を避け、ローテーション散布を心がける。
※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

発行：J A さ が え 西 村 山
さがえ西村山野菜振興協議会

害虫防除【殺虫剤】

作業	RAC コード	薬 剤 名	使 用 方 法				対 象 病 害 虫				注 意 事 項
			倍 率	散布量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数	アザミ ウマ類	アブラ ムシ類	オオタ バコガ	ハダニ類	
定植前	8 F	バスアミド微粒剤 [㊞]	30kg／10a		は種又は定植21日前まで	1 回					●登録：センチュウ類（ハガレセンチュウを除く）、半身萎凋病、白絹病、萎凋病、青枯病 本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。
定植時	1 B	カルホス微粒剤 F [㊞]	6 kg／10a 土壌表面散布 土壌混和处理		定植時	1 回					●登録：ネキリムシ類
	4 A	スタークル粒剤	1 g／株（但し、10a当たり30kgまで）		定植時	1 回		●			●登録：マメハモグリバエ（2g／株） ※ジノテフランを含む（スタークル）総使用回数は3回以内（定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内）
生育期	4 A	スタークル顆粒水溶剤	3,000倍	100～300L	7日前まで	2回以内		●			●登録：コナジラミ類
	6	アフーム乳剤	2,000倍	100～300L	14日前まで	1 回	●				
	4 A	モスピラン顆粒水溶剤 [㊞]	2,000倍	100～300L	14日前まで	2回以内	●	●			
	4 A	ベストガード水溶剤	1,000倍	100～300L	7日前まで	2回以内	ミカンキロ●	●			●登録：コナジラミ類
	3 A	バイスロイド E W [㊞]	3,000倍	100～300L	7日前まで	2回以内	●				※【合成ピレスロイド剤】（バイスロイド、トレボン、アグロスリン）抵抗性害虫出現防止のため総使用回数は2回以内とする。但し、アグロスリン乳剤の使用は1回のみである。
	29	ウララ D F	4,000倍	100～300L	7日前まで	2回以内		●			
	U N	ブレオフロアブル	1,000倍	100～300L	7日前まで	2回以内			●		
	3 A	トレボン乳剤	2,000倍	100～300L	3日前まで	2回以内		●			
	3 A	アグロスリン乳剤 [㊞]	1,500倍	100～300L	3日前まで	1 回	●	●	●		●登録：ハスモンヨトウ、ヨトウムシ
	1 B	マラソン乳剤	2,000倍	100～300L	3日前まで	2回以内		●			
	13	コテツフロアブル [㊞]	2,000倍	100～300L	3日前まで	2回以内	ミカンキロ ミナミキロ●		●	●	●登録：アワダチソウグンバイ、ヨトウムシ類
	30	グレーシア乳剤	2,000倍	100～300L	3日前まで	2回以内	●		●	●	●登録：ハスモンヨトウ
	34	ファインセーブフロアブル [㊞]	2,000倍	100～300L	3日前まで	2回以内	●				
	5	スピノエース顆粒水和剤	10,000倍	100～300L	3日前まで	2回以内	ミカンキロ●				※同一成分とみなし連用を避ける。
	5	ディアナ S C	2,500倍	100～300L	前日まで	2回以内	●		●		●登録：ハモグリバエ類
	6	アニキ乳剤	2,000倍	100～300L	前日まで	3回以内			●		●登録：ハスモンヨトウ
	未分類	エコピタ液剤	100倍	100～300L	前日まで	—		●		●	●登録：コナジラミ類、うどんこ病 ※野菜類での登録
	11 A	ゼンターリ顆粒水和剤	1,000倍	100～300L	発生初期前日まで	—			●		●登録：アオムシ、シロイチモジヨトウ、ヨトウムシ ※野菜類での登録
	20 B	カネマイトフロアブル	1,000倍	150～300L	7日前まで	1 回				●	
	25 A	スターマイトフロアブル	2,000倍	100～300L	7日前まで	1 回				●	※同一成分とみなし連用を避ける。
	25 A	ダニサラバフロアブル	1,000倍	100～350L	3日前まで	2回以内				●	
	6	コロマイト水和剤	2,000倍	100～300L	前日まで	1 回				●	
	未分類	アカリタッチ乳剤	2,000倍	100～400L	前日まで	—				●	※葉害の恐れがあるので、高温、多湿時には散布しない。 ※1週間間隔で2～3回、葉に十分付着するようていねいに散布する。 ※野菜類での登録

病害防除【殺菌剤】

作業	RAC コード	薬 剤 名	使 用 方 法				対 象 病 害 虫				注 意 事 項
			倍 率	散布量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数	白さび病	褐斑病	灰色かび病	うどんこ病	
	N C	ハーモメイト水溶剤	800倍	150～300L	前日まで	—			●	●	※野菜類での登録
	M 5	ダコニール1000	1,000倍	100～300L	30日前まで	4回以内		●			
	1	トップジンM水和剤	1,500倍	100～300L	28日前まで	2回以内		●			※収穫30日前までに使用する。
	3	サプロール乳剤	1,000倍	100～300L	14日前まで	5回以内	●				※【E B I 剤】耐性菌出現防止のため総使用回数は2回以内とする。
	3	ラリー乳剤	3,000倍	200～300L	14日前まで	2回以内	●				
	7	アフエットフロアブル	2,000倍	100～300L	7日前まで	2回以内	●		●	●	
	12	セイビアーフロアブル20	1,000倍	100～300L	3日前まで	2回以内			●		
	11	ストロビーフロアブル	3,000倍	100～300L	3日前まで	2回以内	●	●			●登録：黒斑病
	11	アミスター20フロアブル	2,000倍	100～300L	前日まで	2回以内	●				※浸透性を高める効果のある展着剤を混用すると葉害を生じる場合がある。【ストロピルリン系】耐性菌出現防止のため総使用回数は2回以内とする。

除草剤使用基準

	薬 剤 名	RAC	10 a 当り薬量／散布量	使 用 時 期	使 用 方 法	使用回数	適 用 雑 草	特 性
土壌処理剤	ゴーゴーサン乳剤 30	3	200 ～ 400 <i>ml</i> ／70 ～ 150 <i>ℓ</i>	定植前（雑草発生前）	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・土壌が過湿の場合は使用しない。 ・キク科雑草およびツユクサには効果が劣る。
茎葉処理剤	バスタ液剤	10	300 ～ 500 <i>ml</i> ／100 ～ 150 <i>ℓ</i>	雑草生育期：畦間処理 (収穫 14 日前まで)	雑草茎葉散布	2 回以内	一年生雑草	・非選択性、スギナに効果高い